

## 子どもが安心して過ごせるように

新年度が始まって約1か月が過ぎました。子どもたちは、新しい環境に慣れてくる一方で、連休が明けて生活リズムが崩れていたり、心身の疲れが出てきたりする頃かもしれません。

このような時期だからこそ、子どもをよくみて言葉に現れていないサインに気づき、話をよくきいて子どもの思いを受け止めることが大切です。

### 子どものサインの出し方は様々です…



### 「よくみる」「よくきく」を心がけましょう

#### ○ 「よくみる」ポイント

- 様々な場面を捉えて、子どもの様子をよくみるようにしましょう  
(登下校時・朝の会・授業中・休み時間・昼食時・清掃時・放課後 等)
- 態度や行動などをよくみて、普段と異なるところはないか確認しましょう  
(ぼんやりしている 遅刻欠席が増えた 忘れ物が多い 等)

☞よくみることで、子どものサインに気づきやすくなります

#### ○ 「よくきく」ポイント

- 子どもの話していることだけでなく、感じていることを想像してききましょう
- まずは次のことを心がけてききましょう

子どもの話すペースに合わせられる心のゆとりを持ちながら  
思い込みや決めつけを脇に置き、子どものことを知ろうとして  
うなずきながら最後まで

※R5 教育相談部発行の「[教師が大切にしたい『きく』の基本](#)」をご参照ください

☞よくきいて子どもの思いを受け止めることで、子どもの安心につながります

\*総合教育センター教育相談部では、子どもや保護者、先生方からの相談を受け付けています。また、各学校での事例検討会に指導主事を派遣しています。学校や家庭で気になる様子などみられましたら、どうぞ御利用ください。 [問合せ先] 教育相談部 (Tel. 028-665-7211)

# 小学校生活のスタート♪

入学してから1か月たち、1年生の様子はどうか？「学校って楽しい！」「これをやってみたい！」など、これから始まる「義務教育」のよいスタートが切れていることを願います。

## 0から始まる訳ではない

入学式で「校長先生は知っています！皆さんは年長さんで『何でもできたこと』『何でもやろうとしていたこと』を！」の決まり文句を祝辞に盛り込んでくださった校長先生が多くいらっしゃいました。幼児期に育んだたくさんの力が1年生一人一人にあることを忘れてはいけません。もっている力を生かして、小学校の学びへとつなげていくことが大切です。そこで言われているのが、架け橋期の教育の充実です。



入学当初4月の様子

## 架け橋期とは

文部科学省が、5歳児から小学校1年生の2年間で「架け橋期」と定義し、この期間の教育の充実を令和4年から重点的に進めています。架け橋期の教育を充実させるために、まずは、園と小学校の先生方の継続的な対話を通して、互いのことを知ることから始めましょう。



## 主体的に自己を発揮しながら学びに向かう

学習指導要領が求める資質・能力を育むために、「主体的に自己を発揮しながら学びに向かう」ことはとても大切な要素です。これを可能にするための重要な時期が「架け橋期」です。様々な経験から総合的に無自覚に学んでいた幼児期から、自分の好きなことが分かり学びを自覚する児童期は、大きな変化の時期であるとともに、有能な学び手となるチャンス時期です。

### この時期の チェックポイント

- 子どもがこれまでやってきたことに、耳を傾けていますか？
- 子どもの「？」を大切に、子ども同士をつなげていますか？
- 子どもの思いや願いから、活動が始まっていますか？
- 生活科を中心として、つながりのある教科の学習になっていますか？

### 【参考に】

架け橋期の教育の充実に関する指導資料をセンターで作成しました。是非、ご活用ください。



【問合せ先】 幼児教育部 (TEL 028-665-7215)